

## 第1回

竹切りボランティア  
(希みが丘区)

# まちの地域力

～自分たちのまちは自分たちでつくる～

希みが丘区長の大淵 泰範さん



第五次小郡市総合振興計画（マスタープラン）では、これからのまちづくりの基本理念として「市民との協働のまちづくり」が掲げられました。「市民との協働のまちづくり」とは、自分たちの地域のことは、自分たちで知恵を出して考え、自分たちで決定し、自分たちの力で実践して、みんなで責任を持ちながら助け合い、支え合い、そして認め合っていく地域社会をつくっていくことです。

つまり、「自分たちのまちは自分たちでつくる」ということを基本に、それぞれ自分たちのできることを行った上で、できないことをお互いに補い合っていくことが「協働のまちづくり」の考え方だといえます。

すでに小郡市におきましても、地域の住民の皆さんが主体となったまちづくりが市内各地で行われています。「まちの地域力」では、これら市内各地の取り組みをシリーズでご紹介していきます。第1回目は、希みが丘区で行われている「竹切りボランティア」の活動をご紹介します。

## 結成！竹切りボランティア！！

希みが丘区の住宅街に「勝負坂堤」という堤があります。堤の北には公園があり、周辺の緑地には竹が自然発生し、堤を覆うように自生しています。緑地にあった木々を隠すように竹は成長し、この周辺は日が当たらないため薄暗く、景観も悪かったそうです。周辺住民は、夏場に大量発生する蚊やカメムシの臭いに悩まされていました。

平成19年度「(堤の)水面が見えるようにしよう」を合い言葉に、希みが丘区民が主役の「竹切りボランティア」を結成しました。毎月第2土曜日にみんなで集まり、自分にできることを分担しながら、怪我のないように作業をしています。とても暑いときや寒いときは作業をしないなど、自分たちにも無理のないように活動を続けています。



フェンスに沿って道路に覆いかぶさる様に竹が茂っていましたが、今ではこのとおり！みんなの力で綺麗になりました。

## 作業の手順

② 2m幅にカットします。



① 切った竹をバケツリレーならぬ、竹リレーで運びます。



③ ビニール紐でまとめます。



④ 集積場に持っていきます。



30分程度の作業で軽トラ1台分の量。搬送を繰り返す。

希みが丘区の大淵区長は、「このボランティア活動を始めて、今年で4年目になります。フェンスに掛かる竹もなくなり、道路には防犯灯も付きました。竹を切り開いていくと今まで竹で隠れて見えなかった立派なシイ林が現れるなど、新たな発見もあります。元々あった木も、元気になったように見えます。将来、堤の北にある公園から遊歩道のような散歩コースが出来たら気持ちいいだろう。」と語られました。

この活動は、「竹林をどうにかしたい。」という地元の問題から出発しました。区長は、「自らしないと誰もしてくれない」と思い、この活動が生まれ、一部の水面も見えるようになりました。何より作業を通じて、地域の絆（結束）も強くなり、その力が地域改善に役立っています。

## 当日参加した「竹切りボランティア」の皆さん



一緒に楽しく作業しましょう

問い合わせ先 総務課協働推進係(内線 244) 希みが丘区問い合わせ先：希みが丘公民館 ☎ 75-7890